（続紙　１　）

京都大学	博士(経済学)	氏名	吉原　清嗣
論文題目	地域金融機関の中小企業経営への貢献効果の実証的エビデンスと理論的メカニズム　―成長を促す金融力の測定方法と新指標の提案		

（論文内容の要旨）

本論文は、地域金融機関が顧客企業の成長に貢献すべきであるという考え方にたって、金融機関の活動が顧客企業の財務業績とどのような関係を持っているか経験的証拠に基づき検討し、そのうえで、顧客企業の財務業績に基づく地域金融機関の新しい評価指標を提言するものである。

第 1 章では、本論文で検討する地域金融機関と顧客企業の関係を理解するために必要な歴史的背景が整理されたうえで、研究課題が提示され全体の構成が示されている。

第２章では、地域金融機関と地域経済や顧客企業との関係に関する先行研究の検討が行われ、実証研究を行うための分析枠組みが導出されている。

第３章では、地域金融機関の中小企業金融における役割の変遷について、金融監督行政の観点から検討され、金融行政の転換点と思われる 1999 年の前後において、地域金融機関の中小企業金融活動がどのように変わったかを歴史的な整理が行われている。

第４章では、地域金融機関の実務経験者へのインタビュー調査を中心としたフィールドワークで得られたデータをもとに、地域金融機関における中小企業金融について、企業育成に対する地域金融機関の貢献に焦点あてた分析が行われ、条件付きながら中小企業の成長を地域金融機関が支援してきたとの実務家の認識と、それを可能にしたメカニズムの骨格が示されている。

第５章では、1975 年から 2017 年のデータをもとに、地域金融機関の融資行動と中小企業の財務業績の関係に焦点をあてた分析が行われている。その結果、2003 年～2017 年の期間については、金融機関の貸出態度判断と中小企業の売上高経常利益率の間に高い相関が確認されている。

第６章では、先島諸島における地域金融機関の融資行動と中小企業の財務業績との関係についての詳細な検討が行われている。先島諸島を対象とすることで、先行研究では行われてこなかったレベルで金融圏と地域圏を一致させた分析が可能となり、地域金融機関の融資行動と中小企業業績との間に一定の相関関係があることが確認されている。

第７章では、都道府県を基本単位とした 2003 年～2012 年の 10 年間のパネルデータに基づく分析が行われている。そこでは地域金融機関として、地方銀行、信用金庫、信用組合がとりあげられ、金融機関の融資行動と中小企業の財務業績の関係が検討されている。分析の結果として、当道府県単位でみた場合、信用金庫の融資行動と中小企業の財務業績の間の相関関係が確認されている。

第８章は、地域金融機関の融資行動が中小企業の財務業績に影響を与える理由について、人的資本論などを援用した理論的な検討が行われている。

第９章では、管理会計学の知見を援用しつつ、地域金融機関の中小企業育成への貢献を測定するための理論的枠組みが提示されている。具体的には、バランススコアカードのように財務指標だけでなく非財務指標を活用することで、結果指標としての財務指標の弊害を緩和する考え方を活用し、地域金融機関の業績を評価する上で顧客の視点を活用した枠組みが提示されている。

第 10 章では、第 9 章での検討を理論的基盤として、地域金融機関の存在意義を地域経済への貢献、とりわけ中小企業の育成として見て、それに対する貢献度合いを測定する手法が提案されている。具体的には、地域金融機関の業績を顧客の業績に基づき評価する新しい指標が提案されている。

（続紙　２　）

（論文審査の結果の要旨）

本論文は、地域金融機関が顧客企業の成長に貢献すべきであるという考え方にたって、金融機関の活動が顧客企業の財務業績とどのような関係を持っているか経験的証拠に基づき検討し、そのうえで、顧客企業の財務業績に基づく地域金融機関の新しい評価指標を提言した意欲的な研究である。

本論文の第1の貢献は、フィールド調査を通じて収集した一次資料をはじめとする独自性の高い定性的・定量的データに基づいた分析を行ない、その結果として、地域金融機関の融資行動が地域経済や中小企業の財務業績に貢献している可能性を示したことにある。従来の研究においては、金融機関の活動範囲と地域経済の範囲が合致しないという限界があった。本論文では、先島諸島では地域金融機関の融資活動が地域経済の範囲に限定されていることに注目し、当該地域の金融機関の内部データを収集することで、地域金融機関の融資行動が地域経済に貢献している可能性が高いことを示すことに成功している。独自の視点に基づいてフィールド調査を行い、そこで収集したデータを活用した統計的分析を通じて学術的にも政策的にも有意義な知見を得ていることが本論文の第一の貢献である。

本論文の第2の貢献は、地域金融機関の融資行動と中小企業の財務業績の関係について、どのような条件のもとで成立しているのか、歴史的観点および業態的観点から分析し、一定の知見を得ていることにある。歴史的にみるならば、1975年～2017年の期間においては、2003年以降について地域金融機関の融資行動と中小企業の財務業績に高い相関が確認されること、業態的には信用金庫の融資行動と中小企業の財務業績の間の相関関係が確認されていることが注目に値する。

本論文の第3の貢献は、実証的な研究から得た知見を土台に、地域金融機関を評価する指標として顧客企業の財務業績に基づく評価指標を提案していることにある。地域金融の実務や実態に対する深い理解を背景として、地域金融機関の存在意義を正面から受け止めた観点から、新しく独自の地域金融機関の評価指標を提示したことは、実証的な研究と規範的な提言を結びつけた研究として高い評価に値する。

分析視角の独自性や、フィールド調査によって収集した独自性の高い一次資料を活用した分析など多くの優れた点を有する本論文ではあるが、改善が必要な点がないわけではない。まず、統計的分析については、さらに洗練した手法を慎重に活用することでより深い分析が可能であった。また、人的資本論や管理会計学の知見を用いた理論的分析についても、先行研究の批判的検討を含め、さらなる精緻化が求められる。

もっとも、これらの課題は今後の課題としての意味を持ち、本論文の本質的な価値を低下させるものではない。本論文をさらに精緻化することで、地域金融機関と地域経済や中小企業育成への貢献可能性についての理解がいっそう深まると期待される。

よって、本論文は博士（経済学）の学位論文としての価値があるものと認める。

なお、平成30年2月5日に論文内容とそれに関連した口頭試問を行った結果、合格と認めた。